

**[成果情報名]イチゴ品種「ゆめのか」の炭疽病、輪斑病およびうどんこ病の発病特性**

[要約] 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、炭疽病、輪斑病に対しほぼ同等、うどんこ病に対しやや強い。

[キーワード] イチゴ「ゆめのか」、炭疽病、輪斑病、うどんこ病

[担当] 長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2013 年度

---

**[背景・ねらい]**

本県におけるイチゴの主要品種は「さちのか」であるが、収量性に優れる「ゆめのか」への切り替えが進められている。安定生産技術確立に向けた栽培試験に取り組んでいるが、病害虫の発生特性については不明である。そこで、重要病害である炭疽病、輪斑病およびうどんこ病の「ゆめのか」における発病特性を明らかにし、防除対策に資する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、炭疽病による葉上の汚斑状斑点発現部位が異なる傾向があるものの、発病小葉率および斑点数に有意な差はない(図1)。また、発病程度の進展も「さちのか」に比べやや遅い傾向があるものの、ほぼ同じである(図2)。
2. 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、輪斑病の発病株率、小葉率および病斑数に有意な差はない(図3)。
3. 「ゆめのか」は「さちのか」と比較し、うどんこ病の発病小葉率、発病度ともにやや低い(図4)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 「ゆめのか」は炭疽病、輪斑病およびうどんこ病に対し、「さちのか」と同様の防除対策が必要である。
2. 「ゆめのか」の果実におけるうどんこ病発病特性を検討する必要がある。
3. 「ゆめのか」は、本試験の噴霧接種条件では炭疽病による薄茶色の汚斑状斑点が葉裏に多く発生する傾向が認められた。本試験において汚斑状斑点が葉裏だけに発生している株は認められなかったが、汚斑状斑点を指標にした罹病株除去の作業には注意が必要である。
4. 本試験に用いた炭疽病菌は *Glomerella cingulata* である。

[具体的データ]

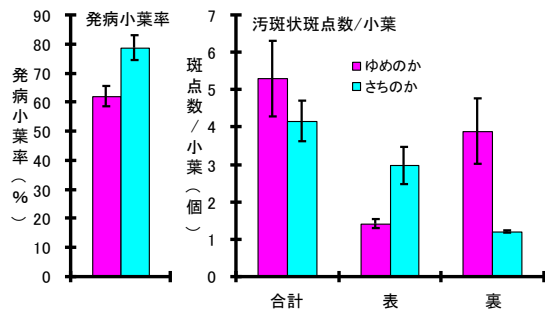


図1 炭疽病汚斑状斑点の発生状況

接種7日後調査  
エラーバー: 標準誤差 いずれの項目も検定で有意差なし

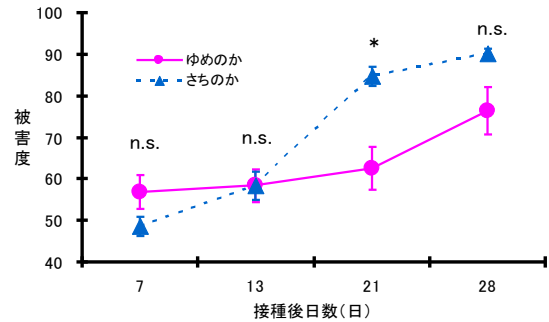


図2 炭疽病の発生推移

エラーバー: 標準誤差 \*検定で\*: 5%水準で有意差あり、n.s.: 有意差なし  
発病株率は両品種ともすべて100%で推移

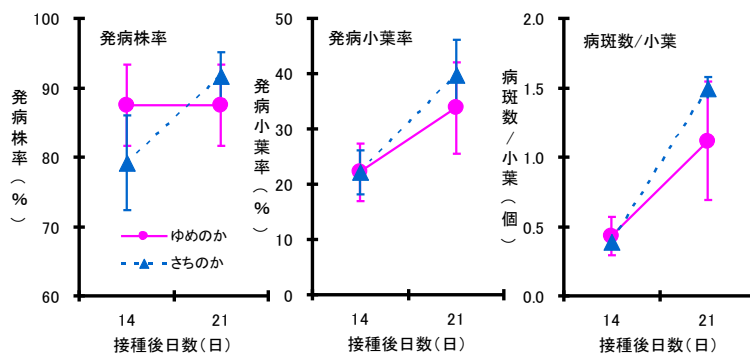


図3 輪斑病の発生推移

エラーバー: 標準誤差 いずれの項目も検定で有意差なし

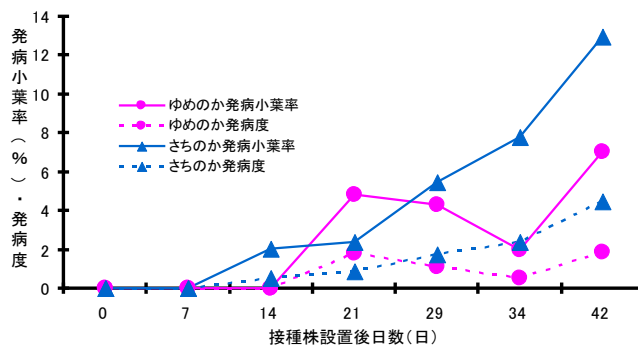


図4 うどんこ病の発生推移

「試験方法」

	炭疽病・輪斑病	うどんこ病
場所	ガラス室	露地
区制	1区8株(9cmポット苗)×3反復	1区9~60株(9cmポット苗)×反復なし
病原菌接種	分生子懸濁液噴霧による直接接種	発病株設置による間接接種
調査部位	上位展開3複葉	上位展開3複葉

[その他]

研究課題名: 農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究

予算区分: 県単

研究期間: 2002年度~

研究担当者: 寺本 健・森 三紗・難波 信行